



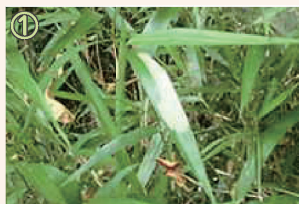
外構植栽管理 -

チャドクガ・イラガ・タケノホソクロバ、 痛い幼虫と発生前後の安全対策

植 物を丸坊主にするだけではなく、その毛が人の皮膚に痒みや痛みのトラブルも引き起こす種類の蛾（ガ）の幼虫（毛虫）は、都市緑地を管理する者には悩みのタネ。生態図鑑によると年1～2回発生のはずが最近は異常気象のせいか早春から晩秋までランダムに発生を繰り返す年もあり、本当に気が抜けません。

た だ被害が最初に見つかるポイントは毎年同じであることが多いようです。そこでまずは安全管理上の指標木としてその木をロックオン。そして指標木で1～2令幼虫を見つけたらそのタイミングで、人の生活動線から3m内の食樹の透かし剪定や刈り込みを開始。これでまだ孵化していない卵塊を減らし、人の目で捉えきれない分をカマキリやシジュウカラ等、蛾たちの天敵生物が見つけて捕獲しやすくしてやれます。

そ の後は植栽巡回点検時に強カスプレー糊缶を携帯。チャドクガならカンツバキ・サザンカ・ツバキの、タケノホソクロバならアズマネザサ・コグマザサの、先端の葉の色が白く抜けていたら、要注意。その葉裏もしくは周囲に幼虫集団がいます。見つけたらすかさずスプレー糊で固定！（※但し、噴射の勢いがよすぎると痒みや痛みのもとになる毛が飛散することがあるので要注意。）これで巡回を一通り終えてから剪定回収に来ても幼虫集団を安全に総取り出来ます。



タケノホソクロバ

- ①遠目に一部白く抜けたように見える葉
- ②そこには集団で葉裏から削って食べる若齢幼虫
- ③オレンジと黒の柄が目立つ終齢幼虫



チャドクガ

- ④幼虫スプレー糊固定
- ⑤幼虫整列
- ⑥卵塊と若齢幼虫

こ んなスマートな管理対応ができるのが、「どんな種類の植物がどこにどれだけあるか」を網羅する「植栽台帳&位置図」を完備した緑地の醍醐味。毎年病害虫管理にお困りなら、まずは緑地の現状把握と履歴確認から始めてみるのはいかがでしょうか？